

学年	コース	教科	科目	類型	必・選	単位数
2	L	家庭	家庭基礎	全	必修	1

講座のねらい

男女ともに家庭生活を営む担い手として、人生を見通し共に生きる、生活を営む、生活を創るということを学習します。そのためにも、生活のさまざまな場合で、男女が共同の責任をもって生活を営む意識を高め、独り立ちの準備として実習や体験を通して実践力を養います。また、多様な社会の変化に対応できる力を問い直し、一人ひとりが自らの価値観を見出し、生き方を探求し「生活をデザインする力」「人間力」を培うことを目指します。

使用教材及び問題集

教科書：「家庭基礎」自立・共生・創造（東京書籍）

授業の内容と進め方

教科書に従って授業を進めますが、それらを発展的に進めるうえでプリントを用います。また、新聞やニュースなどから家庭生活をめぐる多様な出来事を取り出し、家族や家庭生活の在り方について考えます。講義と実習を組み合わせますが、講義はHR教室で、実習は家庭科室にて行います。

講座の到達目標

- 1) 乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えます。
- 2) 高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識できるようにします。

評価の観点・テスト・課題など

評価は定期考査が中心となりますが、課題プリント提出で学習状況を確認します。また、出席状況・授業態度、作品実習への取り組み方を平常点とします。

備考

○用具の準備
裁縫セット

授業の計画

1 学期 学習計画および学習内容

第2章 子どもと共に育つ

1. 子どもの育つ力を知る
 - (1) 子どもの育つ力
 - (2) 生まれつき持っている能力
 - (3) 身体の発達
 - (4) 心の発達
 - (5) 遊びの発達

[作品製作]

2 学期 学習計画および学習内容

第2章 子どもと共に育つ

2. 親として共に育つ
 - (1) 子どもの発達と保育
 - (2) 子どもの生活と保育
 - (3) 親として育つ
3. これからの保育環境
 - (1) 現代の子育て環境
 - (2) 地域社会の関わり
 - (3) 子どもの権利と福祉

第3章 高齢社会を生きる

1. 高齢期を理解する
 - (1) 人の一生と高齢期
 - (2) 高齢社会の現状と課題

[作品製作]

3 学期 学習計画および学習内容

第3章 高齢社会を生きる

2. 高齢者の心身の特徴
 - (1) 老化と成熟
 - (2) 多様な高齢者
3. これからの高齢社会
 - (1) 高齢社会を支える仕組み
 - (2) 高齢社会の将来像

[作品製作]